
OB 通信

2008 年 No.8

(2008.11)

第 20 回出雲全日本大学選抜駅伝競走

- ・ 我が校から 3 人出走する歴史的快挙!!

齋藤純(4)が 1 区、小林和也(M1)が 4 区、大場直樹(2)が 6 区に出走

第 26 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

- ・ 東北学連選抜チームで永井瑞希(4)が 3 区、大淵真波(4)が 4 区に出走

東北大生でのタスキリレー!!

第 59 回東北地区大学体育大会

- ・ 今泉卓真(3)がハンマー投げで 2 位、砲丸投げで 4 位、円盤投げで 5 位に入賞

第 26 回スポニチ奥州前沢マラソン

- ・ 島田健作(4)が 30km で 1° 43'36 の部記録を樹立
-

お知らせ

秋季三秀総会および七大戦祝勝会のご案内

～目次～

・ 第 20 回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2~3 ページ
・ 第 26 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	4~5 ページ
・ 第 59 回東北地区大学体育大会	6~13 ページ
・ 第 26 回スポニチ奥州前沢マラソン	14 ページ
・ 秋保マラソン	15 ページ
・ 自己記録更新者一覧	16 ページ
・ 秋季三秀総会のお知らせ、及び七大戦祝勝会のお知らせ	17 ページ
・ 会計からのお知らせ	18 ページ
・ 今後の予定	19 ページ
・ 編集後記	19 ページ

晩秋の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
今号では、主に第 20 回出雲全日本大学選抜駅伝競走、第 26 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会や第 59 回東北地区大学体育大会の結果をお伝えいたします。

第 20 回出雲全日本大学選抜駅伝競走(10/13) 於 出雲市

本大会は前回大会のシード校(1,2,3 位※地区推薦と重複は除く)、各地区(関東 10、関西 2、九州 2、東海 1、中国四国 1)から推薦された大学単独チーム、地区学連選抜(北海道学連、東北学連、北信越学連、中国四国学連)、米・アイビーリーグ選抜チーム、ならびに 20 回記念大会特別枠 1 校の 22 校で争われました。

今年は東北学連選抜チームに我が校から小林和也(M1)、齋藤純(4)、大場直樹(2)の 3 人が選ばれ、3 人とも出走しました。

東北学連チームは序盤から一方的に離される苦しいレースを強いられ、22 位という結果に。優勝は日本大学。東北学連との差は約 15 分でした。

しかし、今回は 3 人の選手が全国大会で走るというとても意義のある大会でした。この選手たちが核となり、来年の白鷹では必ず優勝してくれることでしょう。

今回走った選手からコメントを頂きました。

第 1 区 齋藤純

自信 2 度目となる全国大会、駅伝では初の舞台。不安と自信が交錯する中、1 区という大役を預かったが、見事にその厚い壁の前に洗礼を浴びせられる結果となってしまった。

事前に OB の橘さんから頂いていた言葉通り、号砲と同時にこれまで体験したことの無いようなハイペースでレースが動き、ただただそのスピード感に圧倒されている内に、スタートから数百メートルであつと言う間に最下位に。1km の通過は 2'45"。決して遅くはないはずだったが、周囲にはもはや誰もいなくなっていた。ここで既に勝負アリ。その後焦って追いかけるも、前との距離は広がる一方。1km すらまともにつけなかったのに後半はオーバーペースが祟り大失速、最後は腹痛にまで襲われ……。全く良い所がないまま、ダントツの区間最下位で襷を渡すことになり、1 区の役目をまるで果たさせてもらえなかった。東北と全国とのレベルのギャップを痛いほど味わうこととなった。

この結果は、私にとってみれば勉強になることが多かった一方で、2 区以降の選手には最下位での単独走を強いることになってしまい、全国のレベルを直接肌で感じる折角の機会を台無しにもしてしまった。今回の東北学連チームは全員が初出場ただけに、自らの不本意な走りのために他の選手にあの圧倒的なスピード感を体験させてあげられなかったのは、心残りではない。だが、それを体験してきた「唯一」の存在として、今後練習や試合でそのスピード感を追い求め、周囲に伝えていくことで、チームにも東北地区にも全国というものをより意識させていきたいと思っている。

最後に、今回東北大から 3 人出場するとあつて期待をされていた方もいらっしやつたと思

いますが、ご期待に沿うような走りが出来ず申し訳ありませんでした。しかし今回、自分にとってチームにとっても全国で戦うのには足りないものが幾つも見付かったように思います。これを機に、来年の出雲や、チームにとっての悲願である全日本出場に向けて、今以上に厳しい練習に臨んでいくつもりでいますので、今後とも変わらぬご支援よろしくお願い致します。

第4区 小林和也

出雲駅伝は私にとって初の全国大会でしたが、特別に構えずにいつも通りの走りをする事を目標にレースに臨みました。レースは残念ながら最下位で襷を受け取り、そのまま差を広げられて襷を次走者に渡すという不甲斐ないもので、自分の力は全国では相手にもされないレベルであると痛感させられました。この悔しさを晴らすために練習を積んで、再び出雲・伊勢といった全国の舞台に立ちたいと思います。また、実力的には選抜内で下位であった中で正メンバーを勝ち取れたのは、長距離を始めとする陸上部の方々の応援があったからだと思います。それに前日にも多くの応援メールを頂きとても勇気づけられました。本当にありがとうございました。

第6区 大場直樹

アンカーの六区を走らせていただきました。こういった大きな駅伝の大会に出場するのは初めてで、興奮とともに不安、緊張もありました。また、この出雲駅伝の最長区間である六区を走ることができ、うれしさも感じていました。駅伝のレースそのものは、大きく差をつけられ苦しい展開になりましたが、この出雲での経験は決して無駄にはならないと信じています。全国のランナーと力を競い、自分のレベルとの違いを肌で感じる事ができました。白鷹で優勝して、全日本大学駅伝出場をつかみ取るために必要なものが、わかってきたような気がします。出雲を経験した三人を中心に、いかに全日本大学駅伝で戦うかを目標として、日々練習に励みたいと思います。最後に、たくさんの応援を頂き、ありがとうございました。

	1区 (8.0km)	2区 (5.8km)	3区 (8.5km)
名前	齋藤 純	長柴 翔(東北学院大3年)	飛田 将孝(東北学院大4年)
総合成績	25'58(22)	44'00(22)	1°12'29(22)
区間成績	25'58(22)	18'02(20)	28'29(22)
	4区 (6.5km)	5区 (5.0km)	6区 (10.2km)
名前	小林 和也	樋渡 翔太(富士大1年)	大場 直樹
総合成績	1°33'06(22)	1°49'07(22)	2°23'23(22)
区間成績	20'37(22)	16'01(19)	34'16(22)

結果の詳細は <http://www.izumo-ekiden.jp/>で見ることができます。

#第26回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(10/26) 於 仙台市

この大会は、各地区(関東 6、関西 4、東北・北信越・九州各 2、北海道・東海・中国四国各 1)の代表校と東北学連選抜(オープン参加)、昨年度上位 6 チームを含めた計 26 チームで争われました。

我が校からは永井(4)、大淵(4)、小海(2)が学連選抜に選ばれていましたが、当日は永井が 3 区、大淵が 4 区を走ることになりました。

学連選抜は終始後ろの方でレースを進める展開となり、総合成績は 23 位相当でした。しかし、東北大生の全女タスキリレーを果たし(記事が読売新聞に載りました)、新たな歴史を刻みました!!

今回走った選手からコメントを頂きました。

3 区 永井瑞希

今年の全女は、念願であった 3 区を走ることができ、更に東北大学リレーが実現し、過去 2 回とは比べ物にならないほど記憶に残る全女でした。

個人的には、正直思うように練習時間が確保できず苦しかった場面もありましたが、白鷹、選考会、そして全女と部員のみなさんや周りの人の支えのおかげで何とか今年の全女を終えることができました。応援してくださった OB・OG の方々はじめ、部員の皆さん、本当にありがとうございました。

今年の全女は、東北大学リレーが実現し「東北大学として全女を走る」という目標に 1 歩近づけたのではないかと考えています。しかし、これは私たちの目標の 1/5 を達成したに過ぎません。自分があるあと 2 年の間に、この目標を何としても達成したいと思っています。全女への道は、そう簡単なものではありませんが、部員一同 1 日 1 日を大切に練習に励んでいきたいと思っています。今後とも応援よろしくお願い致します。

4 区 大淵 真波

東北学連選抜チームの 4 区として走らせていただきました。走っている間、沿道から東北大学への応援がたくさん聞こえてきて、気持ちよく走ることが出来ました。大学に入ってからずっと目標としてきたこの駅伝に出場することができ、さらに同じ東北大学の仲間である瑞希と襷リレーができたことはとても光栄でした。しかし、個人的な結果は目標に届かず、全国の厳しさを痛感しました。

今回東北大学からは選抜チームに 3 人選ばれ、2 人が走ることが出来ました。このことは東北大学の目標である「チームで全女に出場する」ということにむけて大きな一歩となったと思います。全女に出場して得ることが出来た課題や経験を生かして、これからまた部員どうし競い合って頑張っていきます。

たくさんの応援、本当にありがとうございました。

	1 区 (6.0km)	2 区 (6.6km)	3 区 (9.1km)
名前	成田 香菜(富士大)	志賀 愛香(仙台大)	永井 瑞希
総合成績	21'50	45'34	1° 20'05
区間成績	21'50(25)	23'44(20)	34'31(23)
	4 区 (4.9km)	5 区 (4.0km)	6 区 (8.0km)
名前	大淵 真波	東川 陽子(仙台大)	豊原 裕美子(仙台大)
総合成績	1° 38'02	1° 52'52	2° 23'18
区間成績	17'57(23)	14'50(20)	30'26(25)

詳細な記録は日本テレビの Web サイト、もしくは東北学連の Web サイトにあります。

日本テレビ <http://www.ntv.co.jp/morinomiyako/>

東北学連 全女競技結果 <http://www.h7.dion.ne.jp/~tgrr3f/>

#第59回東北地区大学体育大会(10/17,18) 於 福島県営あづま陸上競技場

今年の大学総体は10月に開催され、今年度最後の対校戦となりました。1日目は少し肌寒い感じでしたが、2日とも天候に恵まれ、短距離を中心に好記録が出ました。

1日目、100mでは出場した全員が自己ベストをだす快進撃をみせ、富樫(2)が準決勝へ進出しました。また、岩崎(2)は110mHで5位に入り、去年に引き続き入賞。

2日目は、200mで田中(4)が決勝に進出し7位に入賞。砲丸投げでは今泉(3)が自己ベストの投擲で4位に入りました。

総合では男子が4位、女子は9位。また、男子フィールドは3位になり底力を見せました。

トラック

男子4×100mR

2-4 6着 43"72

瀧澤(2)-富樫(2)-鈴木一輝(1)-岩崎(2)

先日の23大戦の走順から瀧澤と鈴木を入れ替えて臨んだ。

1走の瀧澤の反応は良かったがあまり伸びがなく5~7番手でバトンパス。

富樫へのパスはスムーズにいったが、他大学との差をあまり縮めることができず鈴木へバトンを渡す。

若干鈴木が早くスタートしてしまったが、なんとかもらうことができた。出遅れたものの追いつけて順位を1~2つ上げる快走。

岩崎とのバトンパスは詰まり気味になった。そして岩崎は他についていくことができず6着でゴール。

男子1500m 予選

3組 5着 尾形 洋平(1) 4'16"91

スタート直後に1人飛び出し、尾形は第2集団後方につける。残り2周で集団が分かれ始める。尾形は粘るも追いつけず5着でゴール。思い通りの走りができなかったものの、プラスで拾われ、決勝進出を果たした。

男子110mH 予選

1-4 5着 猪爪 宏彰(3) 18"97(+1.8)

2-5 2着 岩崎 辰哉(2) 15"26(-0.2)

3-7 3着 一ノ倉 聖(2) 15"98(+0.5)

1組目には今年高専から編入してきた猪爪が対校戦初出場。出だしこそ良かったが、その後徐々に失速し、残り3,4台のインターバルは5歩になり勢いを失ってしまった。

2組目の岩崎はこの大会で去年も入賞している。高速トラックでどこまで記録を伸ばせるか注目された。スタートからトップに立ち、前半のハードリングは快調であった。しかし中盤で福島大に追いつかれ、僅差の2着でフィニッシュ。

3組目の一ノ倉は前半の飛び出し、加速は良かったが50m付近から浮いた感じのハードリングになり、離されて3着でゴール。

決勝進出は岩崎ただ一人であった。

女子100m 予選

2-2 5着 菊地 亜加里(3) 13"46(+1.4)

スタートでうまく飛び出せず、加速が十分でなかったため他大学においていかれる。中盤は粘りを見せ、5着でフィニッシュ。

男子 100m 予選

2-6 6着 神林 啓人(4) 11"47(+0.7)
4-4 4着 鈴木 一輝(1) 11"32(+1.1)
5-9 3着 富樫 宏朗(2) 11"13(+1.6)

1組目の神林はスタートでやや出遅れた。加速してスピードにのり、中盤から追い上げたものの遅れを取り返せず6着。

2組目鈴木は、隣の選手の飛び出しが速かったせいかスタートが固くなった。その後も加速局面で離され、中盤の粘り空しく4着。

3組目の富樫はスタートから良い飛び出しをみせ、後半も目立った失速もなく好記録を叩き出して3着でフィニッシュ。

富樫のみ準決勝進出だが、全員自己ベストを更新。富樫は今年初めから成長著しく来年も期待が持てる。鈴木も順調に記録を伸ばしており、跳躍、短距離とも注目される。神林は大学最後の100mを自己ベストで飾った。

男子 400m 予選

1-6 5着 高林 佑輔(1) 51"74
3-3 3着 田中 裕志(4) 50"29
5-7 5着 遠藤 智之(2) 51"78

1組目の高林は、外側の選手が飛ばしていたがそれにつられず、自分のリズムで最初の100mに入った。200mで動きが小さくなったが、なんとか粘って5着に入った。

3組目の田中は、前半から積極的に突っ込んで前の選手をかわす。バックストレートでもぐんぐん加速したが、300mから徐々にリズムがくずれ、終盤失速。

5組目の遠藤は1つ内側の選手が速かったがバックストレート中盤まで粘り、良いリズムを刻んだ。200~300mで徐々に失速して他の選手についていけなかった。

残念ながら誰も決勝に進めなかった。

男子 3000mSC 決勝

1組 21位 工藤 佑馬(1) 11'11"30
19位 相澤 直人(4) 10'23"14
2組 6位 島田 健作(4) 9'29"95

風も強く、強い日差しの中でのスタート。トラックが硬く、膝への負担も心配された。

1組目、工藤はスタート直後こそ積極的に先頭を引っ張るも、すぐに後退、後方でレースを進める。相澤は終始7番前後。1000m手前から集団がばらけ始め、2人とも先頭から大きく離される厳しい展開に。相澤が8着で19位。工藤が10着で21位。

2組の島田は表彰台を狙っての走りに期待がかかる。先頭集団につけ2000mまで牽制しあいながらのレース。残り2周で1人飛び出す。島田はそのスパートに対応し2番手に上がるも苦しくなり粘ることができず、6着でゴール。総合6位。表彰台を逃すも、自己ベストの走りをみせ得点した。

男子 100m 準決勝

2-3 7着 富樫 宏朗(2) 11"41(-1.1)

予選で自己ベストを更新して臨んだ準決勝。風は向かい風が変わっていた。予選のタイムは14番目だが、好調を維持する富樫がどこまで勝負できるか注目された。

スタートの反応が一瞬遅れ、前半で遅れた。中盤粘りラストで追い上げるも逃げ切られ7着。

今シーズンの成長は目を見張るものがあった。スタートからスムーズに入ることができかが課題と考えられる。

女子 1500m 決勝

9位 千葉絵里子(2) 4'59"88

15位 小海 麻美(2) 5'12"43

開始から縦長のレースになり、2人とも集団の中盤からやや後方に。1周目は落ち着いて入ったが、2周目から小海が苦しくなり徐々に遅れる。千葉は粘りを見せ前の選手にくらいつくも先頭との差が広がる。3周目以降は集団がばらけ、千葉が9位、小海15位。

千葉は久々の5分切りの走りを見せた。

男子 1500m 決勝

12位 尾形 洋平(1) 4'22"18

膝の故障もある中、予選に続き本日2本目のレース。

スローな展開でレースが進み、尾形は最後尾につけ様子を伺いながらスタート。800m過ぎからペースが上がり始め、ラスト1周から先頭が猛烈なスパートをかける。尾形は対応しきれず12位でのゴールとなった。

1年生ながら決勝に進んだ経験を活かして、今後のレベルアップを期待したい。

男子 110mH 決勝

5位 岩崎 辰哉(2) 15"54(-1.2)

予選を大学ベストで通過した岩崎。本人曰く、そんなに調子がよくなかったが、しっかりタイムを出してきた。

スタートは良かったが、2,3台目で両隣の選手が寄ってきて接触。リズムが崩れハードリングで攻めきれず5着でフィニッシュ。

かなり悔しいレース内容となった。しかし、決勝にちゃんと残るところはさすが。来年のブレイクに期待する。

男子 10000m 決勝

14位 渡辺 貴哉(4) 34'24"22

風もなく日もかげり、長距離には絶好コンディションでのスタート。

スタート直後から縦長のレース展開。17名の第1集団と、4名の第2集団でレースを進める。4000mまでは3'20前後で走るも、それ以後徐々にペースが落ちる。5000m過ぎから全ての集団が分かれ始め、先頭は6人に絞られる。渡辺は第2集団からやや遅れるも何とか粘って差を保つ。レース終盤は失速を抑えられずゴール。

男子 4×400mR 予選

2-2 3着 3'22"04

遠藤(2)-高林(1)-柴田(3)-田中(4)

出場チームが少なく、決勝進出は確実と思われた。決勝に向けてよい流れを作れるか。

初めて1走に起用された遠藤は安定した走りをみせ4番手あたりでバトンパス。

2走の高林は前半ややスピードに乗りきれなかったものの、粘りの走りで3走柴田へ。

柴田は風邪の影響を感じさせない走りで順位を上げアンカー田中につないだ。

田中は前半から積極的な走りで一時2位となるが、最後は流して3着でフィニッシュ。

女子 800m 予選

1組 6着 荒木佳那子(1) 2'40"61

2組 3着 千葉絵里子(2) 2'31"10

5着 須藤 彰子(3) 2'37"51

1組目は1人が飛び出し、その後集団が違う形となる。荒木は集団後方につけ、1周目を73秒前後で通過。粘るもラスト300mからのスパートにつけず、6着でゴール。

2 組目千葉、須藤は後方からのスタート。1 周目を 71 で通過。須藤はここで苦しくなり徐々に遅れをとる。千葉は前との差が詰まらず、3 位をキープしゴール。須藤は 2'38 でのゴール。千葉は久々の決勝進出を決め、午後の決勝での 2'30 切りに期待がかかった。

男子 800m 予選

1 組 2 着 本間 亮太(2) 2'00"21
2 組 5 着 早坂 達也(2) 2'06"21
3 組 4 着 田村 淳(1) 2'04"41

1 組目はスタート直後から 1 人が飛び出し、本間を含めた集団が後を追う展開に。本間は 2~3 位でレースを進め、残り 250m 付近で一気にスパートかけ 2 着。

2 組目の早坂は自身初の 800m。5 番手前後でレースを進め、集団から離れる。懸命に粘り、一時 4 番手に上がるも 5 着でゴール。

3 組目田村は積極的に先頭を引っ張り、1 周目を 55 秒のハイペースで通過。600m 付近までは粘るも、ラストで 3 人にかわされ 4 着でゴール。

本間は全体 9 位で惜しくも決勝進出を逃した。田村を始めの積極性は評価できるが、ラストの競り合いに課題が残った。

女子 200m 予選

1-7 6 着 土肥可奈世(1) 29"54 (+0.3)

試合ごとに力をつけている土肥。最終戦は来期に繋がる結果を残したいところ。

スタートの反応は良かったが、他選手との実力差は明らかでホームストレートに出る前に大差をつけられた。後半粘ったものの、腕と脚の動きは小さく、苦しいレースだった。

男子 200m 予選

1-6 2 着 柴田 智弘(3) 22"65(+1.1)
4-8 4 着 神林 啓人(4) 23"20(0.0)
5-3 3 着 田中 裕志(4) 22"31(+0.7)

1 組目の柴田は風邪であったが、自己ベスト。スタートからリードし、2 番手でホームへ。後続との差を維持したまま 2 着でゴール。

4 組目神林は 100m 自己新の勢いで 200m も記録を更新したいところ。スタートは良かったがカーブ後半でスピードが乗りきらない。ラスト 30 で驚異の追い上げを見せ 4 着。

5 組目の田中は 400m で振るわず、マイル予選で最後に失速、と不調であったが、200m は自己ベスト。前半のカーブで快調に加速し 2 番手でストレートへ。その後若干フォームが乱れたが、スピードを維持し 3 着。

準決勝へは柴田、田中が進出した。

女子 400mH 予選

2-5 5 着 菊地 亜加里(3) 71"49

好スタートをきり、1,2 台目を順調にクリア。3 台目を過ぎから失速し他大との差が広がる。ラスト 100m で追い上げ 1 人を抜いて 5 着でフィニッシュ。決勝に進出した。

男子 400mH 予選

2-8 5 着 一ノ倉 聖(2) 58"31

23 大戦では練習不足ながら好タイムを出した一ノ倉。今回はその実力が試される。

好スタートで飛び出し、前半ぐんぐんスピードを上げ 200m を通過。その後若干失速したものの粘り、3 番手でホームストレートへ。しかし、最終ハードルでつまずき、2 人に抜かれて 5 着。

つまずきながら 23 大と同程度のタイム。

しっかり走り切れれば記録更新が期待できる。

男子 5000m 決勝

1組 21位 鈴木 雄輔(3) 16'32"18

2組 10位 平 聖也(3) 15'49"48

20位 箭内 正輝(2) 16'31"62

いつもの顔ぶれとは違う3人の出場で、自己ベスト更新の期待がかかる。

1組鈴木は、レース前の宣言通り、スタート直後に積極的に前に出て先頭に立つ。しかし、1000m手前で失速し、第2集団の中ほどに位置をキープする。中盤でのペースダウンが目立ったが、ラスト1200m付近からスパートをかけて、ラスト1000mは3'20を切る懸命な走りを見せ16'32でゴール。

2組目は平、箭内の両者とも集団の中ほどでスタート。平が第2集団を引っ張り、箭内は最後尾を抑え気味で走る。その後若干ペースが落ちるも平が第2集団、箭内が第3集団の先頭を引っ張る。平はなんとかペースを維持し、箭内は集団がばらけ苦しくなる。ラスト1000mで平は他の選手と競り合いながら3'05までペースアップし、スパートをしっかりかけて15'49でゴール。箭内はうまく切り替えることができず、苦しい走りとなり16'31でゴール。

日差しが強い中、中盤のペースダウンがあったものの、鈴木、平のスパートの切り替えは評価できるものがあった。

男子 200m 準決勝

1-7 8着 柴田 智弘(3) 23"48(-0.9)

2-7 5着 田中 裕志(4) 22"26(+0.5)

柴田は好スタートを切ったが、次第に内側の選手に差を詰められ6番手あたりで100mを通過。残り70m付近から失速し8着で

フィニッシュ。

田中は順調にスタートを切り、80m付近まで先頭争いを演じる。しかし、90m付近から他の選手のスピードについていけず一気に順位を落とす。最後まで粘って前との差を詰めたものの及ばず5着。しかしまた自己ベストを更新し、タイムで拾われ決勝進出。

女子 400mH 決勝

8位 菊地 亜加里(3) 70"61

スタートはよく、1台目は順調に通過。その後2台目から徐々に離され、前半で差を大きくつけられる。後半は粘りの走りで前との差を詰めるが追いつけず8位。しかし予選よりもタイムを縮めることができた。

ちなみにこの種目では福島大の青木選手が57"51の大会記録で優勝している。

男子 200m 決勝

7位 田中 裕志(4) 22"40(-0.6)

予選、準決と自己ベストを更新して波に乗る田中。400mでは果たせなかった決勝進出を200mで果たした。

まずまずのスタートをきったが外側の選手との差を詰められない。直線に入ってから差は開く一方で、7位でフィニッシュ。

総体は23大とは違い、安定して22秒台前半を出した。ロングスプリントだけでなく、ショートでの活躍も期待できそうだ。

女子 800m 決勝

7位 千葉 絵里子(2) 2'30"04

スタート直後から福島大の3選手が飛び出し、千葉は7番手でレースを進める。1周目を70秒で入るが、前の選手との差をなか

なか詰められない。2周目はペースダウンして7着でフィニッシュ。

専門外の種目であったが、2'30を切れそうなスピードを身につけた。

女子 5000m 決勝

4位 永井 瑞希(4) 17'47"39

12位 大淵 真波(4) 18'26"21

13位 小海 麻美(2) 18'37"71

東北学連選抜メンバーの3人が出場し、次週に行われる全日本大学女子駅伝の区間選考レースを兼ねて行われた。

序盤から福島大が1人抜け出し、その後ろを集団で追う展開に。永井と大淵は前方、小海は後方につける。1000m過ぎで集団が縦長になり始め、ペースは変化してないが2位集団が絞られ小海が徐々に離される。3000m過ぎに永井がペースを上げ2位集団の先頭を引っ張る形に。大淵と小海は切り替えられず12、13番手で後を追う。ラスト1周、粘りを見せたが2位集団のスパートに対応できず永井は4位でゴール。大淵と小海は12、13番手をキープしてフィニッシュ。

永井は17分台を出し、自己ベストに迫る素晴らしい走りで次週の全女への意気込みを感じるレースであった。

女子 4×100mR 決勝

7位 54"05

飛内(3)-菊地(3)-土肥(1)-須藤(3)

序盤から大きく離され、もはや抜き返せる距離ではなかった。純粋な短距離選手は1人しか走っておらず、部員の少なさに頭を抱える結果となった感がある。

男子 4×400mR 決勝

5位 3'22"03

遠藤(2)-柴田(3)-高林(1)-田中(4)

1 走遠藤は必死の力走。ラスト50mで失速するも実力通りの走りをし、6番手あたりでバトンを渡す。

2 走柴田は個人種目の疲れもあり、前半でスピードに乗りきれない。しかし確実な走りで6位争いの集団にくらいつき3走へ。

高林はバトンパスでややロスし、この影響か100m付近まではスピードが上がらなかった。その後バックストレートで前との差を詰め、6位争いをしながらアンカー田中へ。

最後はやはり頼れるこの男。田中は貫録の走りで3チームをごぼう抜きし、5着でフィニッシュ。

七大戦のタイムには及ばなかったが4人とも本調子でない中でのレースであったことを考慮すれば評価できるだろう。

フィールド

女子三段跳決勝

7位 菊地亜加里(3) 10m13(+1.4)

9位 飛内 茜(3) 9m29(+0.9)

飛内は1本目ファール。踏切が合わなかったうえに、つぶれた。2本目では足を合わせた感じで何とか最後まで跳躍。3本目は足は合ったが2本目に届かず、9m29が最高。

菊地は1本目、つぶれて記録は良くなかった。2本目はジャンプが良くなかったが10m13。5本目は一番良い跳躍だったが、2本目には届かず、10m13が最高となった。

男子円盤投決勝

5位 今泉 卓真(3) 36m25

円盤は今泉が出場。1投目は手から抜けた感じで軌道も低く、記録は良くなかった。2投目は高さはあったが手で無理に高くした感じがあり伸びなかった。3投目は記録を伸ばし36m25をマーク。この時点で4位。決勝4,5投目は右に抜けた感じでバラバラになった。この間に5位に落ちた。6投目に逆転したいところだが35m32と伸びず、5位で競技を終えた。

結果こそ5位入賞だが、実力はもっと上と思われる。円盤の勢いと高さがうまく合わされば更なる記録が期待できる。

男子三段跳決勝

7位 瀧澤 翔太(2) 14m10(+2.1)

染谷 拓(4) NM

瀧澤は1本目10cmのファール。2,3本目は足を合わせてしまい記録は良くなかった。4本目は助走に勢いがあり、足は合ったが、ステップでつぶれる。このとき14m10をマーク。5,6本目はともに低調におわり4本目の記録が最高に。7位に入賞した。

染谷は全ての跳躍がミスで終わった。つぶれたり、スピードが足りなかったりと、課題が残った。

男子ハンマー投げ決勝

2位 今泉 卓真(3) 49m18

今日の今泉は調子が良かった。1投目はファールであったが48mは飛んでいるように見えた。2投目はターンが安定し49m16をマーク。ここで2位になる。3投目は力んでファール。4投目以降は力みが抜けない感じ

で、記録的には悪くはなかったが2投目を超えられなかった。最終結果は2位。

今シーズンなかなか出せなかった49m台が出たので良い結果と言える。

男子走高跳決勝

7位 岡本 聖司(4) 1m85

1m85の1回目は高さが足りずファール。2本目もうまくいかずにファール。3本目でギリギリクリアし1m90に進む。1m90は3本ともうまくいかず1m85で試技を終了。7位に終わった。

男子砲丸投決勝

4位 今泉 卓真(3) 12m41

砲丸投げも今泉の出場。1投目は砲丸が抜け、記録も11m80と納得のいく投げではなかった。2,3投目でも思うように砲丸を突き出すことができず記録を伸ばせなかった。3投目までは6位で、5投目まで砲丸が抜けてしまうような投げが続いた。最後の6投目は気持ちを入れ直し、気合いを入れての投擲。12m74の自己ベストを叩き出し、4位になった。

結果は4位と良かったが、安定性をもう少しつけたいところである。

女子走幅跳決勝

15位 飛内 茜(3) 4m07(+0.6)

3本とも同じくらいの記録であったので助走は安定しているとみられる。ただ、上体が突っ込みすぎているため、着地の時に手をつけている。踏切準備動作、空中動作を練習する必要があると思われる。

男子走幅跳決勝

落合 裕規(3) 記録なし

本来であれば、鈴木一輝(1)、岩崎(2)も出場するはずであったが、召集時間確認が十分でなく2人はコール漏れ。1人出場できた落合は3ファール。

鈴木は調子もよく、優勝も十分狙えたが残念な結果であった。本人も相当悔しがっていた。以後は時間確認をしっかりと行い、確実に勝利を収めてほしい。

男子やり投げ決勝

4位 杉本 和志(1) 55m69

12位 落合 裕規(3) 43m86

肘と足底を負傷中の落合と、腰を負傷中の杉本の出場。それに加え落合は学業のため練

習不足であった。

個人戦でコツをつかんだ様に感じていた落合だが、練習不足は否めない。3本とも低調な記録で終わった。

杉本は腰痛のためパスを使いながら試技を行う形にしようと思ったが、1、2投目を連続ファール。3投目に記録を残すもベストエイトの最下位。4投目以降は記録を伸ばしたが、本調子にはほど遠く4位で試技を終了した。

2人とも怪我を早く治し調子を取り戻してもらいたい。

*応援に来てくださった先輩方(敬称略)

鈴木義教 松本洋 中嶋啓太 八木洋光

#第26回スポニチ奥州前沢マラソン(11/3) 於 岩手県奥州市

今年も我が校から多数参加し、好記録が生まれました。

男子 10km の部では斎藤(4)が優勝。それに加えて 1~5 位を東北大で独占しました。女子 10km も永井(4)、大淵(4)がワンツーを決めました。また、島田(4)が 30km の部で 1° 43'36 の部記録を樹立しました。

男子 10km	斎藤 純(4)	32'33"	優勝
	平 聖也(3)	33'00"	2 位
	川口 亮平(M1)	33'05"	3 位
	林 亮輔(4)	33'33"	4 位
	小林 和也(M1)	33'43"	5 位
	箭内 正輝(2)	34'57"	20 位
	鈴木 雄輔(3)	36'57"	40 位
	中道 尚史(3)	38'00"	57 位
女子 10km	永井 瑞希(4)	38'41"	優勝
	大淵 真波(4)	39'07"	2 位
男子ハーフ	渡辺 貴哉(4)	1° 18'18"	7 位
男子 30km	島田 健作(M2)	1° 43'36" (部記録)	2 位

#秋保マラソン(11/8) 於 秋保

毎年恒例の秋保マラソンが今年も行われました。この日は晴れていましたが、冷たい風が吹いていて、寒い中での開催となりました。18km の部では前長距離パートキャプテンの平(3)が優勝。9km の部では中嶋(M1)が柴田(3)の追撃を振り切り優勝。女子優勝は全女を走った大淵(4)。短距離優勝が赤平(1)、フィールド優勝が鈴木一輝(1)でした。

18Km の部		part	学年	記録	9Km の部		part	学年	記録
1位	平聖也	長	3	57'29"	1位	中嶋啓太	短	M1	32'07"
2位	川口亮平	長	M1	57'39"	2位	柴田智弘	短	3	32'49"
3位	林亮輔	長	4	59'07"	3位	田中裕志	短	4	38'45"
4位	箭内正輝	長	2	59'48"	4位	岡本聖司	跳	4	39'10"
5位	小林和也	長	M1	1°00'32"	5位	加藤聡	短	4	40'06"
6位	島田健作	長	4	1°00'57"	6位	富樫宏朗	短	2	40'33"
7位	相澤直人	長	4	1°01'52"	7位	染谷拓	跳	4	40'48"
8位	渡辺貴哉	長	4	1°02'30"	8位	阿部佑亮	短	2	41'45"
9位	吉田真人	長	OB	1°05'43"	9位	永井雅人	跳	D1	43'31"
10位	尾形洋平	長	1	1°06'21"	10位	金子勇介	短	3	47'34"
11位	中道尚史	長	3	1°06'26"	11位	落合裕規	跳	3	47'36"
12位	大淵真波	長	4	1°09'00"	12位	長谷川翔平	跳	M1	47'36"
13位	田村淳	長	1	1°11'33"	13位	飛内茜	跳	3	52'26"
14位	赤平和紀	短	1	1°11'59"	14位	菊地亜加里	跳	3	54'24"
15位	千葉絵里子	長	2	1°12'27"	15位	今泉卓真	投	3	55'06"
16位	鈴木一輝	跳	1	1°15'25"					
17位	佐藤健二	長	OB	1°15'32"					
18位	鈴木義教	短	M2	1°16'00"					
19位	遠藤智之	短	2	1°18'13"					
20位	佐々木翔平	短	1	1°22'11"					
21位	斎藤達	跳	1	1°22'57"					
22位	眞山隆徳	長	OB	1°27'19"					
23位	荒木佳那子	長	1	1°27'39"					
24位	杉本和志	投	1	1°37'30"					
25位	土肥可奈世	短	1	1°38'01"					
26位	田澤央充	短	1	1°42'16"					
27位	渡辺友馬	短	1	1°48'16"					

参加して下さった先輩方(敬称略)

宮崎鉄男 佐藤健二 眞山隆徳 吉田真人 永井雅人 鈴木義教 川口亮平 小林和也
中嶋啓太 長谷川翔平

#自己記録更新者一覧(10/1~11/8)

<男子>

・100m

神林 啓人(4)	11"47(+0.7)	(東北総体)
富樫 宏朗(2)	11"13(+1.6)	(")
鈴木 一輝(1)	11"32(+1.1)	(")

・200m

鈴木 一輝(1)	22"67(+1.6)	(仙台大競技会)
田中 裕志(4)	22"26(+0.5)	(東北総体)
富樫 宏朗(2)	23"41(+1.9)	(仙台大競技会)
柴田 智弘(3)	22"65(+1.1)	(東北総体)

・800m

田中 裕志(4)	2'00"25	(山形大競技会)
----------	---------	----------

・10000m

斎藤 純(4)	31'16"32	(日体大記録会)
---------	----------	----------

・3000mSC

島田 健作(4)	9'29"25	東北大歴代5位(東北総体)
----------	---------	----------------------

・10km ロード

川口 亮平(M1)	33'05	(第26回スポニチ奥州前沢マラソン)
林 亮輔(4)	33'33	(")

・30km ロード

島田 健作(4)	1° 43'36	東北大部記録(第26回スポニチ奥州前沢マラソン)
----------	----------	---------------------------------

・砲丸投げ

今泉 卓真(3)	12m74	(東北総体)
----------	-------	--------

<女子>

・800m

荒木 佳那子(1)	2'40"61	(東北総体)
-----------	---------	--------

・三段跳

飛内 茜(3)	9m29(+0.9)	(東北総体)
---------	------------	--------

秋季三秀総会、及び七大戦祝勝会のご案内

今年度秋季三秀総会が 11 月 29 日(土)に行われます。それにあわせて、今年初優勝を果たした七大戦の祝勝会を行うことになりました。

◎秋季三秀総会

日時：11 月 29 日(土) 16：00～

場所：川内サブアリーナ(川内新第二食堂です。かつて旧第二食堂があった場所の隣です)

◎七大戦祝勝会

日時：11 月 29 日(土) 18：00～20：00

場所：川内サブアリーナ

会費：5000 円

※祝勝会に参加される方は※

- ①メール配信になっている方はメールでご出欠をご返信願います。
- ②従来通り郵便での配布になっている方は、同封のハガキでご返信ください。

締切りは 11 月 23 日(日)です。

多数ご参加されますようお願い致します。

ご不明な点は副務まで。

#会計からのお知らせ

本年度、三秀会費のご納入、ご寄付をしていただいた OB、OG の皆様、誠にありがとうございました。皆様のご支援により、本年度も無事に活動を終えることができました。

さて、今年度は七大戦初優勝、出雲駅伝、全女など現役部員達の輝かしい活躍がありました。来年度もさらなる活躍を目指し、部員一同日々練習に励んでおります。部員たちが大いに活躍できるよう、来年度もより一層のご支援をよろしくお願い致します。

会計 阿部 佑亮

#今後の予定

- 11月16日 第63回宮城県駅伝競走大会 (石巻)
11月23日 第25回宮城県女子駅伝競走大会 (古川)

#編集後記

出雲、全女と東北大の選手が多数参加することは今までになかったと思います。かなり歴史的な年となったに違いありません。全女の補助員をしていて思ったことは心なしか去年より盛り上がっているように感じました。それは数字にも表れていて、読売新聞によると去年の沿道の応援が7万2000人だったのに対し、今年は8万人だったそうです。また、東北学連の忙しさもひしひしと感じました。私自身、前日と当日に働きましたがそれでも非常に疲れました。しかし彼らは2日なんて短い日数ではありません。もっと膨大な時間をさいて準備、運営にあたっているのです。頭が上がりません。

話は変わってこの季節恒例の芋煮会。今年は例年になく大変なことになりましたが、無事(?)に終了しました。私は幹事学年だったため、あまりゆっくりできませんでしたが、来年からは芋煮の味を存分に堪能したいと思います。

文責 副務 新沼 啓 千葉 絵里子